Gran Maestro M.NAKAGAWA 記念

GALA CONCERTO

ゴールデン・ガーラ・コンサート グランフェスタ 2017

紀尾井ホール

2017年5月4日(木・祝)

開演　13時 《開場12時30分》

第一部　薫風の調べ
第二部　煌く星の旋律
第三部　愛とよろこびの声

■全席自由(一部除く)　■ 大人 3000 円　学生(小中高)1500 円　■乳幼児(未就学)はご遠慮願います

主催　(社)日本イタリア協会
TEL 075-466-5505 FAX 075-466-5510 Mail info@nipponitalia.com
〒616-8047 京都府京都市右京区花園宮ノ上町51 WEB www.nipponitalia.com

才能の、珠玉と彩

日本だけでなく、世界の重要文化財や一流舞台にて
数々の名演奏会をプロデュースし、情熱あふれる音楽家たちを
支援し続けてきたのが、当・日本イタリア協会です。
新緑の、希望にあふれる季節を華やかに彩る演奏で、
ほんのひととき、美しい音楽をお楽しみください・・

監修・お話　中川　くにこ

大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業。ボローニャ国立音楽院留学。1982年マリオデルモナコ年国際コンクール Premio Speciale（特別賞）マテリアル大賞を受賞しイタリアデビュー。ＮＨＫ、内外のオペラや数多くのコンサート、国際コンクールの審査等で国際的な活動を続けている。日本音楽界草分けとして活躍した父中川牧三から学んだベルカントの発声を基礎に、20世紀を代表するイタリアオペラ界の巨匠（半世紀以上に亘る父牧三の親友）。レナータ・デバルディ、マリオ・デル・モナコ、ジーノベーキ、ジュリエッタ・シミオナート、マグダ・オリヴェーロ等より愛顧と教示を直に受け、本場イタリアにて長年にわたって真のベルカントを研鑽。大阪芸術大学で6年間教鞭をとった後、再度イタリアに活動拠点を移しボローニャ国立音楽院においてイタリア国立機関の音楽教育を本格研究。日本やイタリアで一流のアーティストと共演する演奏活動と並行して世界有数の国際コンクールの運営や審査にも早くから携わり、イタリアやアメリカの名門コンクールのオブザーバーを1986年から世界最年少でつとめる。現在もイタリア・ミラノ「マグダ・オリヴェーロ国際コンクール」主席審査員、ブスコルド「G・ヴェルディ国際コンクール」審査委員、毎日新聞・日本イタリア協会共催「イタリア声楽コンコルソ」および「イタリアピアノコンコルソ」審査総務委員長。2009年MaesutoroMakizoNakagawaを記念して「コンコルソMusicArte」(全部門)を創設、審査運営委員長。内外の一流演奏会や音楽祭のキャスティングコーディネートを努めるなど、父牧三の広い人脈を継ぎイタリアと日本を往来しながら、ベルカントの普及と国際的な音楽教育、文化交流に尽力している。Vicenza市テアトロオリンピコ国際フェスティバル、フィレンツェ市・京都市姉妹都市国際フェスティバル、ミラノ・クザーニ宮国際フェスティバル、サンタマルゲリータ市国際フェスティバル、ラパッロ市国際フェスフェスティバル等、イタリア各市にて毎年共催、日本総監督・運営委員長をつとめる。2008年より日本イタリア協会理事長。　関西二期会、日本演奏連盟会員、大阪日伊協会理事

ゲスト　水谷川　優子

6歳からチェロを始め、桐朋学園女子校等学校音楽科卒業、同大学ディプロマコースを経て、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院首席卒業、同大学院修士修了マギスターの称号を得る。ローマのサンタ・チェチーリア国立アカデミーのソリストコースにて研鑽を積みながらヨーロッパでの演奏活動を開始した。いままでに勝田聡一、松返恵子、ハイディ・リチャウアー、故アルトゥーロ・ボヌッチ、室内楽を故ハンス・ライグラフ、メナヘム・プレスラー、ハーゲン弦楽四重奏団の各氏に師事。第6回東京国際室内楽コンクール優勝、併せて齋藤秀雄賞とアサヒビール賞を受賞、イタリア・カラブリア芸術祭コンクール優勝、ピネローロ国際室内楽コンクール2位ほか多数受賞。19歳で故アレキサンダー・シュナイダー氏によりNYストリング・セミナーに招かれて以来、ザルツブルグ室内管弦楽団首席奏者、ザルツブルグ・ソリステンのメンバーとしてなど海外での活動がメインとなっていたが、2003年より日本でも本格的にソロ公演を行うようになった。いままで王子ホール、紀尾井ホール、浜離宮朝日ホールなどでのリサイタルや欧州から共演者を招いての室内楽公演では『日本人離れしたスケールの大きさが大きな魅力』（ぶらあぼ）『豊麗な美音や限事な運弓運指から生み出される弱々たるカンタービレ』（音楽の友）といった反響を巻きおこし、2008年より開始した『水谷川優子リサイタルシリーズ』ではヨーロッパに土台を持つ演奏家らしい、オリジナリティーに溢れるユニークなプログラムで話題を呼び、いま日本の音楽界に、その独特の感性と豊かな音色が際立つ実力派チェリストとして存在を印象づけている。またジャンルの違う様々なアーティストとのコラボレーションにも積極的で、能楽師の松井彬匡、琵の大倉正之助氏とのフィンランド公演（2003年）や、フィンランドにおけるパフォーマンスアートでの即興演奏（2008年）、第35回日本賞受賞式で能管の一噌幸弘氏と笙太子節夫妻のご列席の元で記念演奏をする（2008年）など国内外を問わず絶賛を博している。水谷川は社会貢献の意識も高く、コンサートの傍ら、ライフワークとして続けている少年院、ホスピス、障害者福祉施設などにおける施設訪問コンサートの実績が認められ、2002年度より財団法人倶進会から助成を受けている。ソロのCD「歌の調べのように」「ソルヴェイグの祈り」（共にビクターエンタテインメントよりリリース）は『レコード芸術』で準推薦盤と準特選盤に選出され、「勇気づけ、包んでくれるような暖かい音色」（東京新聞）「心をノックするチェロ」（毎日新聞）と、音楽家としての本質を高く評価されている。現在はソロの傍ら、アルバート・ロトﾚ、マーク・ゴトーニと組んだデオフィルストリオ（2008年度パロックザール賞受賞）やチェンバロ三重奏『アクア・トリニティ』(CD『水の薫り』をソニー・ミュージック・ダイレクトよりリリース）などでのアンサンブルでも演奏活動を展開、同時にドイツにも拠点を置いてヨーロッパ各地の音楽祭に独奏者、室内楽奏者として招聘され高い評価を獲得している。その豊潤な調べは多くの人を魅了してやまない。

総合司会　朝岡　聡

横浜市生まれ。慶應義塾大学卒業後、テレビ朝日にアナウンサーとして入社。各種スポーツ中継や「ニュースステーション」初代スポーツキャスターとして活躍。1995年フリーとなってからはテレビ・ラジオ・CM出演のほか、クラシックやオペラ・コンサートの司会や企画構成にも活動のフィールドを広げている。都響、東フィル、東響、日フィルをはじめ国内外のオーケストラやアーティストとも共演多数。興味深い内容を軽妙なトークで展開する独自の世界は、新しい芸術ファンのすそ野を広げる司会者として注目と信頼を集めている。特にオペラに関してはコンサート司会以外にも早稲田大学エクステンションセンター「オペラに行こう」の講座や、サントリーホールオペラアカデミー公演および藤原歌劇団公演でのナビゲーターなどで名場面や有名アリアを生き生きと物語るトークが大好評。バロック・モーツァルト、ベルカントオペラには特別な情熱を持ち、毎年オペラ取材のためヨーロッパの歌劇場に通う愛好家でもある。雑誌掲載の旅企画でオペラをテーマにした現地取材ものも多数。著書にリコーダー愛を綴った「笛の楽園」(東京書籍)。「いくぞ！オペラな街」（小学館）。日本ロッシーニ協会運営委員。

＜テノール＞
浅原　孝夫
滝沢　健作
原　　拓也

＜ソプラノ＞
一條　眞紗子
安藤　園子
砂田　愛梨
山本　祐子

青山　君子
大堀　博美

＜ヴァイオリン＞
島田　光博
江畠　篤也
佐久間　基就
鈴木　聡美
瀬部　愛海
冨山　英那
中島　美由
三輪　風駕
山口　洋紀
出口　恵大

＜ビアノ＞
井上　悠
城島　恵子
鈴木　智子
三輪　昌代
渡辺　茉里子

＜フルート＞
金澤　昭博
城山　千影
奈良　めぐみ

＜マンドリン＞
赤木　奏映

※写真※これまでの主催演奏会や催事のごく一部を抜粋・ご紹介